



ハクチョウゲ

78 編は **マスクील**(瞑想的詩)。**アサフの詩** です。これには伴奏はなく、72節まであり、詩編の中で2番目に長い詩編です。

冒頭に **わたしの民よ、わたしの教えを聞き／わたしの口の言葉に耳を傾けよ。** と述べています。箴言、言い伝え、聞いて悟ったことであると説明していますので、説教と捉えていいのではないのでしょうか。77 編では **わたしは語りません(77:5)** と引きこもっていましたが、やっと語るべき言葉を与えられたのでしょうか。

この詩編の言葉を聞くべきは、イスラエルの民全体です。まず、①神に選ばれたこと **主はヤコブの中に定めを与え(5)**、②信仰の継承 **その子らに語り継がなければならない(6)**、③戒めを守る **そ**

の戒めを守る(7) の三点が民への教えです。しかし、突然 **エフライムの子ら** と、名を挙げて、叱責し、裏切り者と断罪しています。 **彼らは神との契約を守らず／その教えに従って歩むことを拒み／その御業をことごとく忘れた／彼らに示された驚くべき御業を。(10)** 民の中でも中心的存在として活躍したエフライム族のヤロブアムがソロモンに対して反逆し、イスラエルはユダ王国と(北)イスラエル王国に分裂し、ベテルに神殿を建てたことを指していると思います。

本論は **先祖がわたしたちに語り伝えたこと(3)** で、イスラエルの原点「出エジプト」物語になります。 **エジプトの地、ツォアンの野で／神は先祖に対して不思議な御業を行い／海を開いて彼らを渡らせ…。／昼は雲をもって／夜は燃え続ける火の光をもって彼らを導かれた。／荒れ野では岩を開き…豊かな水を飲ませてくださった。(12)** それでも民は欲望から離れる事なく、不満を持ち、表裏者となり、神へ背反し続けました。しかし、神は憐れみ深く、罪を贖われる。 **彼らを滅ぼすことなく、繰り返す怒りを静め／憤りを尽くされることはなかった。／神は御心に留められた／人間は肉にすぎず／過ぎて再び帰らない風であることを。(38)** と、詩人は人間の儚さを憐れんでくださる神を賛美します。神がエジプトで下した「10の災い」を列挙して、エジプトから脱出させたことを記します。 **神は御自分の民を羊のように導き出し／荒れ野で家畜の群れのように導かれた。(52)** やがて **神は彼らを御自分の聖地の境にまで導かれた。…彼らの前から諸国の民を追い払い／彼らの嗣業を測り縄で定め…それぞれの天幕に住ませられた。(52)** と、約束の地が与えられました。それなのに反抗する民がいました。 **彼らはいと高き神を試み／反抗し、その定めを守らず／先祖と同じように背き、裏切り…異教の祭壇に仕えて神を怒らせ／偶像を拜んで神の激情を引き起こした(56)** ついに神の裁きを招いてしまいました。

この結果は **主はヨセフの天幕を拒み／エフライム族を選ばず／ユダ族と、愛するシオンの山を選び／御自分の聖所を高い天のように建て／とこしえの基を据えた地のように建てられた。(67)** と、ダビデ王朝と、エルサレム神殿の正統性を認めることになりました。その求心的人物であるダビデの信仰を **彼は無垢な心をもって彼らを養い／英知に満ちた手をもって導いた。(72)** と、褒め称えています。

『讚美歌 21』は 416「神の民は」を挙げています。 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-09-05>
 ジュネーブ詩編歌は素朴な感じのクルムホルン(先の曲がった管でできている中世の管楽器)とオルガンの合奏です。 <https://www.youtube.com/watch?v=diFGLcYxk9w&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=78>